

28年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成28年5月1日～ 28年5月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
入荷動向	国産材	33.3	8.3	8.3
	外材	0.0	10.0	0.0
在庫動向	国産材	0.0	0.0	10.0
	外材	△ 37.5	△ 12.5	△ 12.5

・国産材ラミナの入荷は3カ月連続して増加。外材は5月の横ばいが、6月増加、7月は再び横ばい。

・国産材ラミナの在庫は5月、6月の横ばいが、7月は増加。外材は3カ月連続して減少。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	26/6月	26/7月
国産材	△ 8.3	0.0	0.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの実購入価格は5月のやや弱含みが、6月、7月は横ばい。欧州材及びその他は、3カ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは製品の引合いが強くなっていることから、仕入れ量も増加。カラマツは、北海道では時期的に丸太不足のため若干手当に苦戦、岩手県内は前回同様に一定量以上は見込めない状況。スギの在庫は、輸入材の代替や大手ビルダーの仕様変更に伴い、ひっ迫感がある、弊社も例外ではなく、引合いは強い。カラマツ在庫は、北海道の出材が少なくなっているため5月はやや減少。翌月以降はある程度の需要を見込んでいるため増加はしない見込み。
・入荷、在庫は、国産・外材共に予定通りの見込み。
・大きな受注の落ち込みから抜け出した感がある。製品をためておく必要があるため、仕入れもやや多めにして、生産量も多めに維持させている。少しずつ製品在庫が減ってきているため、徐々に生産量を増やして在庫量を維持させる。

(ラミナ価格動向)

・スギ・カラマツ共に横ばい。
・国産は変わらず。外材は一部円安に振れた際のものが入荷する。
・ラミナ仕入れ価格は安定させたい。

28年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
生産動向	国産材	35.7	14.3	21.4
	WW集成管柱	△ 16.7	0.0	△ 16.7
	RW集成平角	0.0	△ 12.5	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	35.7	14.3	7.1
	WW集成管柱	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	RW集成平角	0.0	△ 12.5	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は3カ月連続して増加。WW集成管柱は5月の減少が、6月は横ばい、7月は再び減少。RW集成平角は5月の横ばいが、6月は減少、7月は横ばい。米マツ集成平角は3カ月連続して横ばい。

・国産材集成材の出荷は3カ月連続して増加。WW集成管柱は3カ月連続して減少。RW集成平角は5月の横ばいが、6月は減少し、7月は横ばい。米マツ集成平角は3カ月連続して横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	26/6月	26/7月
スギ集成管柱	20.0	10.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	16.7	16.7	0.0
RW集成平角	0.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の出荷価格は5月、6月の強含みが、7月は横ばい。ヒノキ集成柱、集成土台及びカラマツ集成土台は3カ月連続して横ばい。

・WW集成管柱は5月、6月の強含みが、7月は横ばい。

・RW集成平角、米マツ集成平角、米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は3カ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・国産材構造用集成材は、荷動きに応じて更には秋需に向けての配慮から生産は徐々にフル生産に向かう。米ヒバ集成材土台角は、仕入れ状況、製品価格を見ながら生産量は一定化させる。ヒノキ集成材は夏から秋に向けて増加すると予想。米ヒバはこれ以上の価格の低下ができないため、平均的な出荷にとどまる。

・生産は、期首の計画通りに推移する。出荷は生産動向に準ずる。

・輸入材の代替等の影響により、スギ集成材の荷動きが活発化している。秋ごろまではこの状況が続く見込み。東北地方は災害公営住宅がピーク。関東地方は一般物件の荷動きが今ひとつであるが、大手ビルダー向けのスギ集成材がひっ迫しており、出荷量は増加している。

(構造用集成材出荷価格動向)

・ヒノキ集成材は今年の2月頃に一部で下がったが、4月に入って通常月並みに受注が入って来るようになった。値段も安定期に入ったと言える。7、8月位でヒノキがひっ迫してくると値上げするメーカーが出てくるかもしれない。むしろそれを期待だが・・・。米ヒバは需要期に向かい、出荷量も増えてくると思うが、ヒノキ集成材の価格も低いところで横ばいとみられるので、とても米ヒバのみ値上げ出来るような状況でない。

・スギ、ホワイト管柱は下値が消えて来ている。

・輸入材の代替等でスギ集成材管柱がひっ迫している。これまでの流通価格が弱含んでいたこともあり、価格に関しては若干反発してきている。カラマツは岩手県産・北海道産共に高値安定の状況が続いているため製品価格も横ばい。